



梅

毎月
新聞
ごはん

第 1 3 号

2005年6月
発行者
リトル・スター・レストラン

インターネット無線スポット



あります。

「毎月新聞ごはん」は、
リトル・スター・レストランが
発行している新聞です。

Little Star Restaurant
リトル・スター・レストラン / Mitaka, Tokyo
tel: 0422-45-3331
www.little-star.ws

今年の梅酒 はじまります。

昨 年の六月、お店で仕込んだ梅酒が、
いよいよ出番を迎えます。一昨年
に漬けた梅酒がちょうど完売とな
りつつあるのです。

リトル・スター・レストランの梅酒は手間暇
かけた自信作。農園から直接取り寄せた青々
とした梅に、ひとつひとつ丁寧に竹串で穴を
あけ、旨味が十分にお酒に染み渡るようにし
ていきます。それを本格麦焼酎で漬込みます。
今年お出しできるのは、梅酒用に作られた本
格麦焼酎で漬けた「スタンダード梅酒」と、
熟成させた旨味の濃い焼酎で漬けた「本格梅
酒」の二種類。どちらも梅の香りと酸味の生
きた、どこにもないオリジナル梅酒になりま
した。
また、新しく「コーヒー焼酎」も始めました。
当店自慢のオリジナルブレンドのコーヒー豆
を、麦焼酎に漬け込んで作っています。香ば
しいコーヒーの香りと、深くコクのある苦み
と旨味をお楽しみ下さい。(麻)

小星★人語

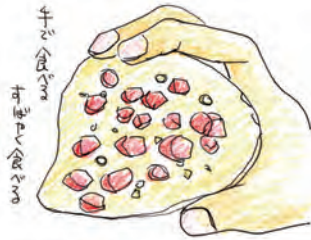
「梅雨」は「五月雨(さみだれ)」
と同じ意味です。梅の実の黄熟
する頃に降り続く雨なので「梅
雨」。旧暦の五月に降り続ける雨
だから「五月雨」。「五月雨」の
方がかの「古今集」以来使われ
てきた雅語で、「梅雨」はいわゆる俗語な
のだそうです▼「走り梅雨」とは梅雨入り
前に見られる、梅雨を思わせる天候のこと。
「迎え梅雨」とも言いますが、そうして梅
雨入り宣言が出る時、とたんに晴れの日が
続く気がします▼そうして雨が少なく、名
ばかりの梅雨になると空梅雨(からつゆ)
と呼ばれることになりましたが、それはそれ
で困ったもので、農作物や真夏の給水のこと
を考えると梅雨にもしっかりと欲しい
ものです▼ざーっと降ってはさっと止むこ
とを繰り返す、メリハリのきいた明快な梅
雨を「男梅雨」、シットシットと長く降り続
くとやかな梅雨を「女梅雨」と呼ぶそう
ですが、今は逆のイメージも多いのではな
いでしょうか▼そうして雷をともなって、ひ
ととわ激しく降る雨がずっと「送り梅雨」
で、梅雨も終わりに近づきます。この雨が
止む頃には夏到来ということになります▼
ちなみに梅雨が明けたと思ったのに、なぜ
かまた雨が何日か降り続くという現象が
「帰る梅雨」。「戻り梅雨」とも言うそう
です▼梅雨は暑い夏の前の、心と体の準備の
時期。そう考えると微妙な風情のある時期
だとも感じられます。今日も「雨ニモ負ケ
ズ」のご来店をお待ちしております。(麻)

ネ パール・カトマンズを旅したのは
二〇〇一年の春。一週間の滞在中、
毎日通った場所が二つありました。

一つはチベット最古の寺院といわれる「スワ
ヤンプナート」。宿から歩いて片道十分ほ
どの道のり、丘を登り、さらに長い長い階段
を上ると現れるストウーパ（仏塔）に挨拶し、
カトマンズの街を見下ろすのが日課でした。
そして夕方になる頃、街に戻ります。入り口
に下がった暖簾が開店の印。店内は地元の人
らしき客でいっぱい。蒸し餃子「モモ」、
チベット風うどん「トウクパ」、そして毎日
必ず注文したのが「マサラ・パド」でした。

旅の うま うま。

その1
マサラ・パド



横のテーブルに座った地元の人が食べている
のを指さし、「あれ、ちょうだい！」とやっ
たのははじまり。豆を挽いた粉で作ったス
ナック「パド」の上に、トマトや玉ねぎ、
小粒で激辛の唐辛子ピッキース、それに何か
スパイスが混ざった具、「マサラ」がたっぷり
のこのっぺい。舌が痺れるほど辛いのに、
なぜかおいしい。すっかり「マサラ・パド」
に、ビール「ツボルグ」の組み合わせが定番
になりました。

毎日通ったこのお店の名前は、Little Star
Restaurant。小さなチベット家庭料理店
の名前は、忘れられない名前となりました。

(麻)

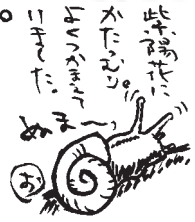
チ ベット料理「マサラ・パド」
を、当店風にアレンジ。豆を挽
いて作ったスナック「パド」の上
に、当店オリジナルカレー粉などのスパ
イスで調味した「マサラ」をのせまし
た。ばのばり、ビールのお供に最適！

LSR Collection
チベット・料理
vol.01 マサラ・パド



旬なお話

梅雨のこの季節。空はぐんぐん暗く、雨がしとしと降り続ける日々。湿度が高く、不快指数が高まること間違いなしです。会社勤めをしていたころ、雨が降る日はほとんど完全武装でした。制服のない会社だったので、なるべく濡れたくはありません。レインコート代わりに、暑くても薄手のコートを着て、靴には防水スプレーをかけ、鞆には必ずタオルを入れていました。それでも多少は濡れてしまいますし、混んだ電車の中を考えると気がめいります。梅雨に限らず、雨の日はあまり好きではありません。雨に濡らさず、以前よりももう雨とつき合えるようになった気がします。室内で本を読んだり、映画を観たり、音楽を聴いたりして過ごすとか。降っているのかわからないような小降りのおときは、神経質にならないで傘をささずに歩くとか。道端や庭に咲いている花、草木が雨に打たれて瑞々しく輝いているのどに気がつくとか。特に今は、曇り空に顔を出す太陽のように、紫陽花がきれいに咲いています。



えるし、飲み水を始めとする生活用水も不足してしまいます。天の恵みとも言うように、雨は、空からの贈り物とも言えます。贈り物といえば、オープン一周年を迎え、知人、友人、お客様と、沢山の方にお祝いをいたたましました。ありがとうございます。思い

がけない方からいただいたりもして、びっくりしました。また、記念にお配りした缶バッジも好評で、差し上げるとその場つけてくださるお客様や、後日来店時につけてくださるお客様もいて、とてもうれしく思いました。

人からプレゼントをもらうとうれしいのは、モノをもらったからというただそれだけではないと思います。そのプレゼントをその人が、選ぶなり作るなりしてくれたとき、その人が自分のことを思ってくれた、そのことがうれしいのです。

以前、ある人に言われました、「give and take (じやんじやん) give and gift なんだよ」相手に何かをしてその見返りをもらおうというのではなく、相手からもらったものは贈り物なんだというその考え方。最近お店でも同じだなあと感じます。お料理やサービスを提供して、一番うれしいのは「おいしかった」「いいお味です」と言うお客様の笑顔です。その笑顔が私たちにとって最高のギフトです。そんなことを思いながら、雨の降り続ける日々も、変わらず、お店を開けてお客様をお待ちしています(圭)

梅雨のこの季節。空はぐんぐん暗く、雨がしとしと降り続ける日々。湿度が高く、不快指数が高まること間違いなしです。会社勤めをしていたころ、雨が降る日はほとんど完全武装でした。制服のない会社だったので、なるべく濡れたくはありません。レインコート代わりに、暑くても薄手のコートを着て、靴には防水スプレーをかけ、鞆には必ずタオルを入れていました。それでも多少は濡れてしまいますし、混んだ電車の中を考えると気がめいります。梅雨に限らず、雨の日はあまり好きではありません。雨に濡らさず、以前よりももう雨とつき合えるようになった気がします。室内で本を読んだり、映画を観たり、音楽を聴いたりして過ごすとか。降っているのかわからないような小降りのおときは、神経質にならないで傘をささずに歩くとか。道端や庭に咲いている花、草木が雨に打たれて瑞々しく輝いているのどに気がつくとか。特に今は、曇り空に顔を出す太陽のように、紫陽花がきれいに咲いています。

梅雨のこの季節。空はぐんぐん暗く、雨がしとしと降り続ける日々。湿度が高く、不快指数が高まること間違いなしです。会社勤めをしていたころ、雨が降る日はほとんど完全武装でした。制服のない会社だったので、なるべく濡れたくはありません。レインコート代わりに、暑くても薄手のコートを着て、靴には防水スプレーをかけ、鞆には必ずタオルを入れていました。それでも多少は濡れてしまいますし、混んだ電車の中を考えると気がめいります。梅雨に限らず、雨の日はあまり好きではありません。雨に濡らさず、以前よりももう雨とつき合えるようになった気がします。室内で本を読んだり、映画を観たり、音楽を聴いたりして過ごすとか。降っているのかわからないような小降りのおときは、神経質にならないで傘をささずに歩くとか。道端や庭に咲いている花、草木が雨に打たれて瑞々しく輝いているのどに気がつくとか。特に今は、曇り空に顔を出す太陽のように、紫陽花がきれいに咲いています。

夏の旬のお話



『チップス先生さようなら』 James Hilton 新潮社

一日に二度は雨が降ると言ってもいいほど、英国ではよく雨に出会う。しほらくいると、どんよりとした曇り空にはすっかり慣れしてしまう。ぼつり、また降り始めた雨はそう強くはない。皆、傘もささずにさっさと歩いてゆく。緑の香りがいっそう濃くなり、町はしっとりと濡れていく。紅茶をすすり、窓に伝う雨を眺めながら、思い出にひたるひととき。



『顔に降りかかる雨』 桐野夏生 講談社

深い悲しみを湛えると、人の心はシンとする。悲しみは、人に静けさを手をさせる。けれど、現実には否応なしに、騒音を伴いながら降りかかる。目をつむり、耳を閉じ、深い眠りに落ちていくことも、まるでそれが使命であるかのよう降りかかる、雨のような現実。時に静かに、時に轟音と共に。静けさをまとった女探偵、ミロの初仕事。



『ナラタージュ』 島本理生 角川書店

学生時代一度くらいは誰しも教師に淡い恋心を抱いたことがあるのではないだろうか。見つめるだけの恋の甘さと残酷さ。その虜になったのが島本作品では何度も先生と生徒の恋が描かれる。どうしようもなく内側から湧いてくる愛情は終りを知らない梅雨の雨のようだ。芯の強い落ち着いた女子高生の主人公に共感を覚える読者も多いことだろう。

★今月のお題★

雨の匂いのある本

テーマに応じたお薦め本を紹介する「本のソムリエ」。雨がシトシト降り続けるこの季節に似合う、本のソムリエのおすすめ本は、

深澤圭子 Keiko Fukazawa

宮崎麻美 Asami Miyazaki

神島ゆづ子 Yuko Heshima

